

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立小泉小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0333

宮城県気仙沼市本吉町平貝63番地

E-mail koizumi-sho@kesenuma.ed.jp

Website <http://www.kesenuma.ed.jp/koizumi-syou/html/htdocs/>

幼児児童生徒数 男子 27 名 女子 30 名 合計 57 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

1 本校のESDでめざすもの

(1) ESDのねらい

地域の自然や人とのかかわりをとおして、よりよいかかわり方について主体的な追究、解決、表現を行いながら、自らの生き方を見つめることができるようにする。

(2) ESDで育てたい資質・能力

①地域の自然や人に関心を持ち、それらにかかわる課題について必要な情報を集めたり、調査方法を考えたりして、見通しをもって解決することができる資質や能力を育てる。

②地域の自然や人とのかかわりを通して、よりよいかかわり方について考えを持ち、学んだことを発信し、自分にできることをしようとする態度を育てる。

2 本年度のESD実践事例

生活科、総合的な学習の時間を中心に、各学年で「ふるさと」「福祉」「防災」の3分野の実践に取り組んでいる。

①【ふるさと】「海に親しむつどい」（全校行事）

本校では、震災前まで学校の近くにあった小泉海水浴場（赤崎海岸）で「砂の造形大会」を行い、全校で海に親しむ活動を進めてきた。しかし、津波で海水浴場がなくなり、活動を見合わせていた。

震災から5年が経過し、ようやく学区内にある二十一浜漁港の港湾工事が終わり、砂浜が利用できるようになったため、昨年度から活動が可能となった。

児童は6年生を中心に、縦割り班で事前に係を決め、自分たちが砂で表現したいものを話し合っけて決めておいた。浜に着いてから砂浜の清掃をして、活動場所の安全確認を行った後、計画通りに「カメ」「クラゲ」「船」などを砂で作りあげた。「初めて海で遊んだ。」「海の水は、しょっぱかった。」「来年の海に親しむつどいが楽しみだ。」などの感想が聞かれた。

②【防災】「地域の防災マップを作ろう」（4年生 総合的な学習の時間）

1学期に、「地域の防災マップ」を作成することを目標として防災の学習を行った。幼稚園、小学校、公民館が合同で行った避難訓練をきっかけに、避難の仕方や大人に助けってもらったこと、幼稚園児のお世話をしたことをなどを想起させ、一人一人が自分の避難経路や避難場所をマップ上に顔写真入りで表示した。

活動を進めていく中で、児童から「3年生にも避難経路や避難場所を教えてあげたい」という提案があり、3年生児童の避難経路や避難場所も加えて表示し、教室に招いて発表会を行った。

③【福祉】「ボランティア活動しよう」（6年生 総合的な学習の時間）

11月に、地域にある介護老人福祉施設を訪問した。事前に、震災時のことを振り返りながら、自分がされてうれしかったことや、相手がされてうれしいことを考えながら交流の内容を話し合った。当日は、簡単なゲームのほか、リコーダーの演奏を披露したところ、集まった方々にとても喜んでもらうことができた。高齢者の方々からは「たくさん元気をもらった」という感想が聞かれた。



砂の造形活動



防災マップ作成



介護老人施設の訪問

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

みやぎ防災副読本 (未来への絆)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、低学年は生活科、中・高学年は総合的な学習の時間を中心に、各学年で「ふるさと」「福祉」「防災」の3つの分野を柱として実践に取り組んでいる。指導内容については各学年の系統性を重視し、前学年の内容が次学年の学習に生かされるようにしている。また、指導方法の工夫改善については、年度末に各学年で指導方法を振り返り、次年度に向けて指導計画を見直す作業を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

平成29年度を迎えるに当たり、前年度のうちに指導計画の見直しを図った。小規模校で教員も少数であるため、特別な体制をとっている訳ではなく全職員で組織的、継続的に活動に取り組んでいる。外部との連携に関しては、教頭、地域連携担当教員を中心に公民館とも連携しながら進めている。今年度も1年間の活動の反省を各学年でそれぞれ蓄積し、来年度の活動に生かす。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/

本校ではユネスコスクールに関する活動についての外部評価は取り入れていないため、内部評価に関して記述する。設問③でも回答した通り、各学年で活動を行うごとにその反省を記録として残し蓄積する。それを基に指導計画に改善を加え次年度に生かす。成果としては、人とのつながりによって豊かな人間性を育むことができたこと、地域の将来について考える機会ができたことが挙げられる。課題は活動の準備に要する時間の捻出が大変なことである。

外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。
(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学年によって配信方法や内容は異なる。配信方法としては、ポスターや新聞、パンフレットなどを作成し、それについて発表したり配布したりしている。また、年に一度、各学年での取組を共有することを目的に、2月に「総合的な学習の時間発表会」を開催している。今年度はパワーポイントを活用した発表を行った学年と、模造紙にまとめた資料を活用して発表を行った学年が見られた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

気仙沼市が東京大学海洋アライアンスと連携していることにより、海洋教育推進事業の指定校となった。前年度、今年度と児童が実践発表会に参加し、活動の成果を発表した。今後も引き続き連携を図っていきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

気仙沼市では、ユネスコスクールの担当者が集まる会議が定期的に行われており、市内の小中学校の実践を知るよい機会となっている。実践発表や報告書から有益な情報を得ることができ、活動を行う際の参考としている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

最も効果があったと思われることは、児童の学習に取り組む姿勢である。活動への意欲が高まるとともに、発表することへの抵抗感が少なくなり、活動成果の発信に積極的に取り組むようになった。また、教員については、ESDの考え方を意識して指導に当たることにより、ESDを行うことで児童に身に付けさせたい力が明確になり、指導改善につながった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

活動計画は下表の通りである。

これを基にして、平成29年度の反省を踏まえ改善を図る。

	ふるさと	福祉	防災
低学年	・学校探検をしよう ・サケのひみつをしろう	・幼稚園児や地域の方と交流しよう	・自分の身の守り方を知ろう (各種の避難訓練を通して)
中学年	・田んぼの周りの生き物を調べよう ・地域の自然について調べよう	・お年寄りと交流しよう ・地域の福祉施設の方々と交流しよう ・人に優しい学校を考えよう	・学校の防災マップを作ろう ・地域の防災マップを作ろう
高学年	・小泉の恵みを調べよう ・小泉の魅力を調べよう ・小泉の魅力を発信しよう	・人にやさしい小泉を考えよう ・ボランティア活動しよう	・小泉の災害の歴史を調べよう ・災害への備えを調べよう